

解答は、すべて解答用紙に記入して必ず提出してください。

第219回簿記能力検定試験 問題用紙

1 級 原価計算・管理会計

(令和7年7月13日施行)

問題用紙（計算用紙含）は回収します。持ち帰り厳禁です。

注 意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
- ・この試験の制限時間は1時間30分です。
- ・解答は、問題の指示にしたがい、すべて解答用紙の指定の位置に記入してください。
- ・解答用紙の会場コードは、試験担当者が指示した6桁の数字を頭の0(ゼロ)を含めてすべて書いてください。
受験番号1番の場合、右寄せで1とだけ書いてください。
受験番号90001番の場合、90001と書いてください。
受験番号を記入していない場合や、氏名を記入した場合には、採点の対象とならない場合があります。
- ・印刷の汚れや乱丁、筆記用具の不具合などで必要のある場合は、手をあげて試験担当者に合図をしてください。
- ・机の上に置けるものは、受験票、黒鉛筆、黒シャープペン、消しゴム、定規、計算用具だけです。
- ・黒鉛筆または黒シャープペン以外で書いてあるものは不正解とします。
- ・ボールペンを使用してはいけません。
- ・下敷きは、机の不良などで特に許されたもの以外は使用してはいけません。
- ・計算用具(そろばん・計算機能のみの電卓など)を使用してもかまいません。
- ・解答用紙は、持ち帰りできませんので白紙の場合でも必ず提出してください。
解答用紙を持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
- ・**簿記上本来赤で記入する箇所も黒で記入すること。**
- ・**解答は、必ず解答用紙に記入してください。**
- ・**金額には3位ごとのカンマ「,」を記入すること。**
ただし、位取りのけい線のある解答用紙にカンマ、上付きカンマ(′)で解答しているものは不正解とします。
また、カンマ「,」(数字の下側に左向き)と小数点「.」は明確に区別できるようにすること。

主 催 公益社団法人 全国経理教育協会
後 援 文 部 科 学 省
日 本 簿 記 学 会

第219回簿記能力検定試験問題

1級 原価計算・管理会計

解答は解答用紙に

第1問 次の原価計算・管理会計に関する文（「原価計算基準」を参考にして）の（ア）～（カ）にあてはまる最も適当な語句を、それぞれに設けた【選択肢】の中から選び、解答欄に記入しなさい。（12点）

1. 原価計算の主たる目的の1つは、企業の出資者、債権者、経営者等のために、過去の一定期間における損益ならびに期末における財政状態を財務諸表に表示するために必要な（ア）（【選択肢】：実際の原価、真実の原価）を集計することである。
2. 異常な状態を原因とする価値の減少、たとえば火災、震災、風水害等の偶発的事故による損失については、原価に（イ）（【選択肢】：算入する、算入しない）。
3. （ウ）（【選択肢】：形態別分類、機能別分類）は、財務会計における費用の発生を基礎とする分類であり、この分類基準によって、原価要素は材料費、労務費および経費に属する各費目に分類される。
4. 原価部門とは、原価の発生を機能別、責任区分別に管理するとともに、製品原価の計算を正確にするために、原価要素を分類集計する計算組織上の区分をいい、製造部門と補助部門に分けられる。材料部、労務部等の管理的機能を行う工場管理部門は（エ）（【選択肢】：製造部門、補助部門）とする。
5. 総合原価計算において、仕損の費用は、原則として特別に仕損費の勘定を（オ）（【選択肢】：設けることをしないで、設けることによって）、その期の完成品と期末仕掛品とに負担させる。
6. 標準直接材料費における標準消費量については、製品の生産に必要な各種素材、部品等の種類、品質、加工の方法および順序等を定め、科学的、統計的調査により定められる。この標準消費量は、通常生ずると認められる程度の減損、仕損等の消費余裕（カ）（【選択肢】：を含む、は含まない）。

第2問 次の取引を仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当なものを選ぶこと。（24点）

仕掛品	売掛金	賃金給料	工場消耗品
買掛金	預り金	副産物	本社
材料	現金	外注加工賃	売上
仕損品	製造間接費	当座預金	工場
仕損費	売上原価	作業くず	製品

1. 主要材料の消費額を直接材料費として計上した。なお、実際消費量は1,400kgであり、消費価格の計算は先入先出法による。
月初棚卸高 250kg @ ¥2,320 当月購入高 1,600kg @ ¥2,400
2. 工場従業員の給与について、本日、当座預金口座から各人の普通預金口座に振り込んで支給した。総支給額は¥4,256,000であり、社会保険料及び所得税等の控除額は¥489,000であった。
3. 工場の製造設備の減価償却費の当月分¥3,120,000を本社側で計上した。工場側には特に経費勘定は設けていない。また、減価償却累計額勘定は本社側に設けている。工場会計が本社会計から独立している場合の工場側の仕訳を示しなさい。
4. 次の外注加工賃のデータにもとづき、当月消費額を計算し、製造指図書#12に計上した。
前月末未払額 ¥31,000 当月支払額 ¥288,000 当月末未払額 ¥42,000
5. A社では個別原価計算制度を採用している。製造指図書#11が全部仕損となり、新たに代品を製造するために製造指図書#11-1を発行した。製造指図書#11に集計された製造原価は¥648,000であり、ここから仕損品の見積売却価額¥59,000を控除し仕損品に振り替えるとともに、残額を仕損費とした。
6. 得意先に製品500個（1個当たりの製造原価¥2,300）を原価の30%増しで販売し、代金は得意先振り出しの小切手で受け取った。なお、製品勘定が設けられているものとし、売上原価も計上する。

第3問 次の資料にもとづいて、連産品原価計算表を完成し、A製品勘定を完成しなさい。なお、仕掛品勘定で全体の完成品総合原価（連結原価）を計算したあと、あん分している。（16点）

1. 当月製造費用 材 料 費：¥1,229,000 賃 金 給 料：¥1,093,000 経 費：¥567,000
2. 仕掛品棚卸高 月初棚卸高：¥ 401,000 月末棚卸高：¥ 560,000
3. 等価係数は、各製品の正常市価により、A製品の等価係数を1とすること。
4. 各製品の正常市価と数量

製 品	正常市価	当月完成数量	月初棚卸数量	月末棚卸数量	当月販売数量
A製品	@ ¥ 600	2,400kg	400kg	300kg	2,500kg
B製品	@ ¥1,800	1,000kg	200kg	150kg	1,050kg
C製品	@ ¥1,200	1,500kg	250kg	300kg	1,450kg

5. A製品の月初有高は¥121,600であった。
6. 製品の払出単価の計算は、平均法による。

第4問 M工業株式会社は家電製品等に使用される汎用的な機械部品を大量生産している。当該部品は第1工程と第2工程の2つの工程を経て製造され、同社は工程別総合原価計算を採用している。下記の資料及び取引にもとづいて、各勘定の記入を行い工程別原価計算表を作成しなさい。（48点）

資 料

1. 材料は第1工程の始点ですべて投入され、加工費は製造の進行とともに消費される。
2. 第1工程完成品のうち一部を外部へ販売する目的で倉庫に保管し、残りはただちに第2工程に投入される。
3. 第2工程の終点で副産物が分離される。
4. 製品及び半製品の払出単価は先入先出法によって計算する。
5. 製品、半製品、副産物、仕掛品の月初有高は下記のとおりであった。

製 品	600個	@ ¥790
半 製 品	120個	@ ¥505
副 産 物	50個	@ ¥150

	第1工程	第2工程
仕 掛 品	1,300個 (50%) 直接材料費 ¥358,800 加 工 費 ¥156,000	1,200個 (50%) 前 工 程 費 ¥613,200 加 工 費 ¥146,400

仕掛品の（ ）内は仕上り程度を意味する。

6. 製品、半製品、副産物、仕掛品の月末有高は下記のとおりであった。

製 品	800個
半 製 品	150個
副 産 物	80個

	第1工程	第2工程
仕 掛 品	1,400個 (50%)	1,000個 (50%)

7. 月末仕掛品の評価は、第1工程が平均法、第2工程が先入先出法によっている。

取 引

1. 第1工程で材料5,200個を消費した。材料払出高の計算は総平均法によっている。
月初棚卸高 600個 @¥280 当月仕入高 5,400個 @¥270
2. 賃金を加工費として次のとおり消費した。
月初未払高 ¥221,000 当月支払高 ¥1,583,000 月末未払高 ¥234,000
第1工程の消費高は¥864,800であり、第2工程の消費高は各自計算すること。
3. 経費を加工費として次のとおり消費した。
月初前払高 ¥62,200 当月支払高 ¥684,800 月末前払高 ¥67,000
減価償却費の当月計上額 ¥94,000
第2工程の消費高は¥426,000であり、第1工程の消費高は各自計算すること。
4. 第1工程完成品のうち4,300個を第2工程に投入した。また、800個を販売目的で倉庫に保管した。
5. 第2工程で製品4,300個が完成した。また、第2工程の終点において副産物200個が分離され、その評価額は¥30,300である。
6. 製品4,100個を@¥1,280で販売し、代金は掛けとした。同時に製品の売上原価も計上した。
7. 半製品770個を@¥680で販売し、代金は掛けとした。同時に半製品の売上原価も計上した。
8. 副産物170個を¥34,000で販売し、代金は現金で受け取った。なお、販売した副産物の売上原価は¥25,680であり、これも同時に計上した。
9. 費用の諸勘定を月次損益勘定に振り替えた。

※氏名は記入しないこと。

全4ページ

①

【禁無断転載】

会場コード
受験番号

第219回簿記能力検定試験

1級 原価計算・管理会計 解答用紙

得点
点

制限時間
【1時間30分】

第1問 (12点)

第1問採点

(ア)	(イ)	(ウ)
(エ)	(オ)	(カ)

第2問 (24点)

第2問採点

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				

第3問採点

第3問 (16点)

連産品原価計算表

製品名	正常市価	等価係数	生産量	積数	あん分原価	単位原価
A製品	@ ¥	1	kg		¥	@ ¥
B製品	@ ¥		kg		¥	@ ¥
C製品	@ ¥		kg		¥	@ ¥
					¥	

A 製品

摘要	借方	摘要	貸方
前月繰越	121,600	()	()
()	()	次月繰越	()
	()		()
前月繰越	()		

第4問採点

第4問 (48点)

第1工程仕掛品

前月繰越	()	第2工程仕掛品	()
材料	()	半製品	()
賃金	()	次月繰越	()
()	()		
	()		()
前月繰越	()		

第2工程仕掛品

前月繰越	()	製品	()
賃金	()	()	()
経費	()	次月繰越	()
()	()		
	()		()
前月繰越	()		

製 品

前 月 繰 越	()	()	()
()	()	次 月 繰 越	()
	()		()
前 月 繰 越	()		

半 製 品

前 月 繰 越	()	()	()
()	()	次 月 繰 越	()
	()		()
前 月 繰 越	()		

副 産 物

前 月 繰 越	()	副産物売上原価	()
第2工程仕掛品	()	次 月 繰 越	()
	()		()
前 月 繰 越	()		

売 上 原 価

製 品	()	()	()
-----	-----	-----	-----

半 製 品 売 上 原 価

()	()	月 次 損 益	()
-----	-----	---------	-----

副 産 物 売 上 原 価

副 産 物	()	()	()
-------	-----	-----	-----

工程別原価計算表

摘 要	第 1 工 程	第 2 工 程	合 計
月初仕掛品原価			
直 接 材 料 費	()	()	()
加 工 費	()	()	()
前 工 程 費	()	()	()
計	()	()	()
当月製造費用			
直 接 材 料 費	()	()	()
加 工 費	()	()	()
前 工 程 費	()	()	()
計	()	()	()
月末仕掛品原価			
直 接 材 料 費	()	()	()
加 工 費	()	()	()
前 工 程 費	()	()	()
副産物評価額	()	()	()
工程完成品原価	()	()	()
工程完成品数量	()個	()個	—
工程完成品単価	(@ ¥)	(@ ¥)	—
次工程振替額	()	—	—

※氏名は記入しないこと。

全4ページ

①

【禁無断転載】

会場コード				
受験番号				

第219回簿記能力検定試験

1 級 原価計算・管理会計 解 答

得 点

点

制限時間
【1時間30分】

第1問 (12点)

@ 2 点 × 6 = 12 点

(ア)	(イ)	(ウ)
真実の原価	算入しない	形態別分類
(エ)	(オ)	(カ)
補助部門	設けることをしないで	を含む

第2問 (24点)

@ 4 点 × 6 = 24 点

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	仕 掛 品	3,340,000	材 料	3,340,000
2	賃 金 給 料	4,256,000	当 座 預 金 預 り 金	3,767,000 489,000
3	製 造 間 接 費	3,120,000	本 社	3,120,000
4	仕 掛 品	299,000	外 注 加 工 賃	299,000
5	仕 損 品 費 仕 損	59,000 589,000	仕 掛 品	648,000
6	現 上 原 金 価 売 上 原 価	1,495,000 1,150,000	売 製 上 品	1,495,000 1,150,000

第3問 (16点)

●印@4点×4=16点

連産品原価計算表

製品名	正常市価	等価係数	生産量	積数	あん分原価	単位原価
A製品	@ ¥ 600	1	2,400kg	2,400	¥ 780,000	@ ¥ 325
B製品	@ ¥ 1,800	3	1,000kg	3,000	¥ ● 975,000	@ ¥ 975
C製品	@ ¥ 1,200	2	1,500kg	3,000	¥ 975,000	@ ¥ ● 650
				8,400	¥ 2,730,000	

A 製品

摘要	借方	摘要	貸方
前月繰越	121,600	(売上原価)	(● 805,000)
(仕掛品)	(● 780,000)	次月繰越	(96,600)
	(901,600)		(901,600)
前月繰越	(96,600)		

第4問 (48点)

●印@4点×12=48点

第1工程仕掛品

前月繰越	(514,800)	第2工程仕掛品	(2,184,400)
材料	(1,409,200)	半製品	(● 406,400)
賃金	(864,800)	次月繰越	(546,000)
(経費)	(348,000)		
	(3,136,800)		(3,136,800)
前月繰越	(546,000)		

第2工程仕掛品

前月繰越	(759,600)	製品	(3,431,400)
賃金	(● 731,200)	(副産物)	(30,300)
経費	(426,000)	次月繰越	(● 639,500)
(第1工程仕掛品)	(2,184,400)		
	(4,101,200)		(4,101,200)
前月繰越	(639,500)		

製 品

前 月 繰 越	(474,000)	(売 上 原 価)	(● 3,267,000)
(第2工程仕掛品)	(● 3,431,400)	次 月 繰 越	(638,400)
	(3,905,400)		(3,905,400)
前 月 繰 越	(638,400)		

半 製 品

前 月 繰 越	(60,600)	(半製品売上原価)	(● 390,800)
(第1工程仕掛品)	(406,400)	次 月 繰 越	(76,200)
	(467,000)		(467,000)
前 月 繰 越	(76,200)		

副 産 物

前 月 繰 越	(7,500)	副産物売上原価	(25,680)
第2工程仕掛品	(30,300)	次 月 繰 越	(12,120)
	(37,800)		(37,800)
前 月 繰 越	(12,120)		

売 上 原 価

製 品	(3,267,000)	(月 次 損 益)	(3,267,000)
-----	--------------	-----------	--------------

半 製 品 売 上 原 価

(半 製 品)	(390,800)	月 次 損 益	(390,800)
---------	------------	---------	------------

副 産 物 売 上 原 価

副 産 物	(25,680)	(月 次 損 益)	(● 25,680)
-------	-----------	-----------	------------

工程別原価計算表

摘 要	第 1 工 程	第 2 工 程	合 計
月初仕掛品原価			
直接材料費	(358,800)	(—)	(358,800)
加工費	(156,000)	(146,400)	(302,400)
前工程費	(—)	(613,200)	(613,200)
計	(514,800)	(759,600)	(1,274,400)
当月製造費用			
直接材料費	(1,409,200)	(—)	(1,409,200)
加工費	(1,212,800)	(1,157,200)	(2,370,000)
前工程費	(—)	(2,184,400)	(2,184,400)
計	(2,622,000)	(3,341,600)	(5,963,600)
月末仕掛品原価			
直接材料費	(● 380,800)	(—)	(380,800)
加工費	(165,200)	(131,500)	(296,700)
前工程費	(—)	(508,000)	(508,000)
副産物評価額	(—)	(30,300)	(30,300)
工程完成品原価	(2,590,800)	(● 3,431,400)	(6,022,200)
工程完成品数量	(5,100)個	(4,300)個	—
工程完成品単価	(@ ¥● 508)	(@ ¥● 798)	—
次工程振替額	(● 2,184,400)	—	—